

人は始めてその事物現象の理由を何等かの形で、説明してやらなければなりません。しかし同じ六歳といつても、精神年齢が五歳位の者もあり、七歳位の者もありますから、その點を判断して取扱はなければならぬでせう。

今假りに「なぜ人には男と女とがあるの」と、六歳女兒が質問したとします。これに對して眞實の科學的回答が出来る者は學者といへどもありませんでせう。この場合幼兒に對して「それは知りません」と答へるのもこの時代の子供に對し、決して策を得た賢明の方法ではありません。

「それは神様がおつくりになつた」といつて格上げしても、「それはネズミがネンドをこねて作つたの」と格下げしても彼等は同じやうに満足するのでありますがこのやうな非科學的な答へをしても、彼等の科學心を阻害することはありませんけれど、概念が亂置されて、全く混淆するのでありますから、試みに逆に子供に質問してみますと、どんな難問でも答へます。混淆でも亂置でも差支ありませんから、むしろ出來

るだけ彼等に考へさせ、その亂置を正常化するやう取扱ふのが本年齡期幼兒科學疑問

## 幼稚園への希望

戰局が益々烈しくなつてまゐりますと、銃後の活動も一層活潑になり、従つて各家庭で子供のために費ひやすことの出来る時間もだん／＼豊なくなつてきます。

このやうな秋にあつての幼稚園教育は、平時よりもすつと責任が重大であります。今までは、國民學校になれば、教育全般を學校まかせにしすぎるお母さん方も、幼稚園時代には、家庭で教育する方を主としてゐる傾向が強いやうでした。

しかし今では、却つてこれが反對になり、幼稚園時代こそ、子供の教育全部を幼稚園におまかせしてゐるやうであります。これは人不足の上に、配給などで、ごこのお母さん方も家庭にちつととしてゐられなくなり、又家にあつても、ちつと子供をみつめて暮すことがむづかしくなつてきたから

取扱ひの要諦であります。

八

## 波多野勤子

でありませう。毎日の生活におはれてしまつて、子供たちは、病氣さへしなければいゝ、といつた具合で放任されてゐるのであります。

しかし、教育は小さい中の方がよけい大切なことは申すまでもないことで、小さい間を無方針で育てられた子供は、これを立派な性格な人格に築きあげるのに非常に手数がかゝります。身體の方面でも、丈夫だと思つて、うか／＼育てた子供が、成長するにつれて、却つて弱くなつたといふ話は、あちこちでかかれます。私自身の経験でも、小さい時に手をぬいた——祖母が主として育て、くれた子供は、今だに、一番に面倒がかゝります。

そこで、現在のやうに主婦がいそがしい時には、幼稚園の先生方が、一層積極的に

指導して、第二の國民を立派に育て、行く必要があります。

さて、それではどんな風に指導して行くかといふと、私はまづ三つのことを第一にしていたゞきたいと思ひます。

### 第一は健康の指導

(1) 防空服裝になつたため、小さい子供たちも非常にモンペが多くなりました。これは靴下の心配も少ないし、さむきに向かつて、暖かである。といふ特長もあります。が、又一面皮膚を弱くする。といふ缺點があります。

ですから、陽のあたる時は、幼稚園で、モンペをぬかして、せいふ日光浴をさして下さい。

(2) 食糧が配給になつたため、子供たちの營養が不十分になりがちです。その上なほいけないことは、營養分のかたよることです。あるものを使ふのだから、いろ／＼注文されても困るといはれるお母さん方があるかも知れませんが、工夫をすれば、まだ／＼活かせる營養分が澤山あります。さういふのをお母さん方に指導すること。それから校醫と相談して、カルシウムの足り

ないお子さん、脂肪を必要とする人、又蛋白質を多くとる方がよさうなお子さんなどは、殊に氣をつけて、配給量の中から、なるべく多くその不足のものを、そのお子さんにふりむけていたゞくやうにし、おべんたうもその見地からみて行くやうにしたと思ひます。

これは、個人的に始終注意して行かなければならないことなので、その面倒もさこそと思ひますが、これからはまづ身體です。そして、戦争はいつまでつゞくかわかりません。配給品もいまよりよくなることは當分のぞめません、さうすれば、現在での一番いゝ方法は、このやうにして幼稚園の先生方に指導していただくことであらうと思ひます。

### 次に性格教育

これも今までのやうに、お子さん方の長所を生活の中で自然に伸ばす、といふだけでなく、國民として必要な性格を積極的に指導していただくと思ひます。

たとへば1ものを正確につたへること、2父母や先生から言つてはいけない。といはれたことは、決して、友だちにしゃべら

ないこと等です。幼稚園では、家庭との連絡は、たいいてい、紙によるか、黒板によるか、宛に角、お子さんの口だけを通じてすることはよくないのです。これは、お子さん方にはまだむりだといふ見地からでありましたが、これからは、どんな時にどんな用事を子供に直接いひつけないければ、ならないかも知れません、そのやうな時の訓練に、幼稚園時代から、家庭へのことづつ練習機關として、子供たちに、はつきり、ものを他へつたへ得る習慣をやしなつてほしいと思ひます。これは復唱の形をとるのが

もつともよろしく、あらかじめ家庭と連絡をとつておうちへかへつたへた言葉の翌日幼稚園へ報告させるやうにして、短文から次第に多少複雑なことまでも、つたへられるやうに、きたへたいと思ひます。

又この反對に、「言つてはいけない」といはれたことは、やたらにしべらない習慣もぎひつけないものです。子供のおしやべりから、ヒントを得たこといふスピーチもよくまゝです。

これの指導は、一組の中で幾人かにつたことを、先生が話してまかせ、しゃべ

つてはいけませんよ、と注意しておきます。それがどの程度まもられるか、又どのやうな時にその約束が守られ難いか等を研究して指導していきます。

もうちき遠足をするとか、いつ何日に、お菓子をあげる。などといふ話は、きつと子供たちにとつておしゃべりしたい内容でせう。どんな内容でも、「ししゃべつてはいけない」といはれたら我慢してししゃべらないやうに子供たちを育てたいものです。これは國家的立場から大切なことです。

第三に防空の實際指導です。いつ空襲があるかわからない。といふことは、いつにもいはれてゐますのに、子供たちはその時の處置を殆んど正確に知つてゐません。私は先日近所にすむ幼稚園へ行つてゐるお子さん方に、

(イ)外にひとりである時、空襲警報になつたらどうするの。

(ロ)「お友達のところへ行つてゐる時、警戒警報がなつたらどうするの？」

ときいてみましたが、兩方ともに正しい答をしたお子さんは六七人の中、一人もありませんでした。このお子さんは、四箇

所のちがつた幼稚園のお子さんで、その一人々々に、お友だちのゐないところでできたのでしたが誰もいゝ答をしてくれなかつたのです。

子供たちは、空襲警報と警戒警報との區別をはつきり知らないのです、イの問にも、ロの問にも、「すぐ倒れてしまふ」とか「すぐ防空壕へはいる」と答へたり、又兩方の答へに對して、「うちへかへること出来るわ」とすましてゐたりします。

こんな時ですから、あんまり遠いところのお友だちへは、あそびにいかないやうにするのも必要ですが、警報をよくきゝわけて、子供ながらも、どうすべきだといふこ

## こゝろのしつけ

いつもびつくりさせられるのは、幼稚園や保育所に行つて、そこの子供たちの言葉が、非常にみだれてゐることです。

言葉は性格をつくり、言葉は生活を導くものであることを思ふにつけ、幼児期の子

と位は、よくおぼえさしておいてほしいと思ひます。勿論これは、まづお母さんのなすべきことなのですが、うつかりしてゐるお母さん方も多いやうですから幼稚園の先生の方でも、その時にあたつてまごつかないやうに指導していただきたいと思ひます。

以上、いろ／＼とやつかないな要求ばかり出して申譯ないでのごさいます。子供たちの將來のため、又十年後二十年後の大日本のために幼児の教育の中樞となつていただくたく敢へて御願ひする次第でござい

## 金丸光

供たちには、あらゆる躰のうちでも、特に、正しい言葉を躰けて行くことに力をつくさねばなりません。

× 母は、絶えざる愛情と根氣づよい努力で、